

## Ⅱ 調査結果の概要

### 1 発育状態調査結果

#### (1) 身長

平成21年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長（県平均値。以下同じ。）については次のとおりである。（図1、表1）

##### ① 前年度との比較（表1 p16）

男子の身長は、5歳、8歳及び13歳～16歳で、前年度の同年齢より0.2～0.7cm増加しており、最も増加しているのは8歳の0.7cmである。6歳、7歳、9歳、11歳及び17歳では、0.1～0.9cm減少しており、最も減少しているのは6歳の▲0.9cmである。

女子の身長は、5歳、9歳及び15歳～17歳で、前年度の同年齢より0.1～0.5cm増加しており、最も増加しているのは16歳の0.5cmである。7歳、8歳及び10歳～14歳では、0.1～0.8cm減少しており、最も減少しているのは8歳及び11歳の▲0.8cmである。

##### ② 男女の比較（図1、表5 p20）

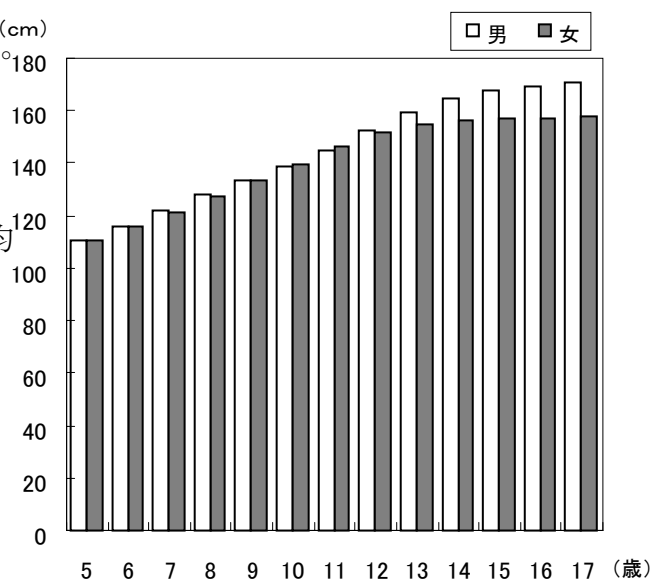
男女の身長を比べると、10歳では1.0cm、11歳では2.0cm、女子が男子を上回っている。

##### ③ 全国平均値との比較（表4 p19）

全国平均値と比べると、男子では5歳、8歳及び13歳を除き、その他の年齢では全国平均値を下回っている。

女子では、5歳、6歳、9歳、13歳及び17歳を除き、その他の年齢では全国平均値を下回っている。

図1 年齢別 男女別 身長の平均値



#### (2) 体重

平成21年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の体重（県平均値。以下同じ。）については次のとおりである。（図2、表2）

##### ① 前年度との比較（表2 p17）

男子の体重は、8歳及び14歳～17歳で、前年度の同年齢より0.3～1.0kg増加しており、最も増加しているのは16歳の1.0kgである。6歳、7歳、9歳～11歳及び13歳では、0.2～1.0kg減少しており、最も減少しているのは11歳の▲1.0kgである。

また、男子の17歳の63.8kgは、昭和31年度の調査以降、過去最高となっている。

女子の体重は、14歳～17歳で、前年度の同年齢より0.1～0.8kg増えており、最も増加しているのは16歳の0.8kgである。6歳～13歳では、0.2～1.2kg減少しており、最も減少しているのは12歳の▲1.2kgである。

② 男女の比較 (図2、表5 p20)

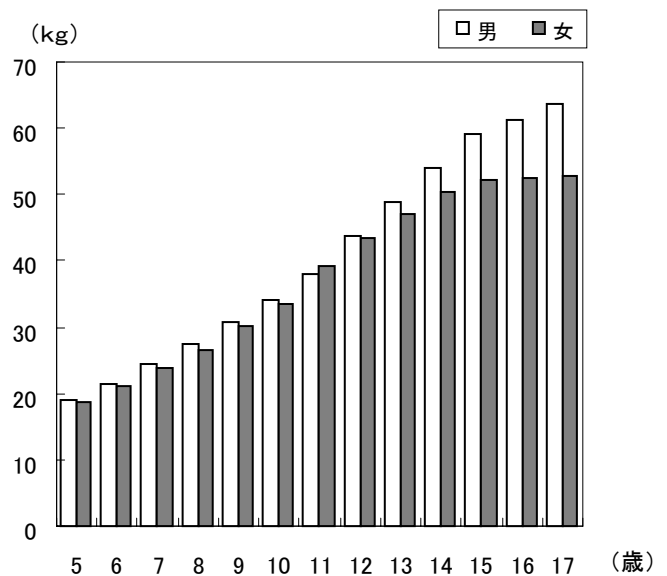
男女の体重を比べると、11歳で1.2kg、女子が男子を上回っている。

③ 全国平均値との比較 (表4 p19)

全国平均値と比べると、男子では7歳～9歳及び17歳で、全国平均値を0.2～0.7kg上回っている。11歳～16歳では、全国平均値を0.1～0.4kg下回っている。

女子では、5歳～9歳、11歳、14歳及び15歳で、全国平均値を0.1～0.7kg上回っている。10歳、12歳、13歳及び16歳では、全国平均値を0.1～0.6kg下回っている。

図2 年齢別 男女別 体重の平均値



(3) 座高

平成21年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の座高 (県平均値。以下同じ。) については次のとおりである。(図3、表3)

① 前年度との比較 (表3 p18)

男子の座高は、8歳及び13歳～17歳で、前年度の同年齢より0.1～0.6cm増加しており、最も増加しているのは16歳の0.6cmである。5歳～7歳、9歳及び11歳では、0.1～0.4cm減少しており、最も減少しているのは6歳及び7歳の▲0.4cmである。

また、16歳の91.3cm及び17歳の92.1cmは、昭和31年度の調査以降、過去最高となっている。

女子の座高は、14歳～16歳で、前年度の同年齢より0.1～0.3cm伸びており、最も増加しているのは15歳の0.3cmである。5歳～12歳では、0.1～0.6cm減少しており、最も減少しているのは8歳及び11歳の▲0.6cmである。

② 男女の比較 (図3、表5 p20)

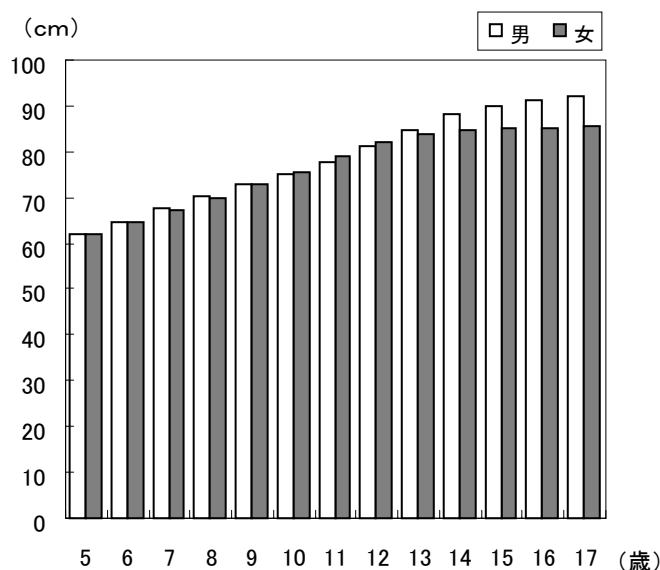
男女の座高を比べると、10歳では0.6cm、11歳では1.5cm、12歳では0.8cm、女子が男子を上回っている。

### ③ 全国平均値との比較 (表4 p19)

全国平均値と比べると、男子では8歳～10歳、16歳及び17歳で全国平均値を0.1～0.3 cm上回っている。6歳、12歳、14歳及び15歳では、全国平均値を0.1～0.3 cm下回っている。

女子では、5歳、7歳及び9歳で全国平均値を0.1～0.3 cm上回っている。10歳～12歳、14歳、16歳及び17歳では、全国平均値を0.1～0.3 cm下回っている。

図3 年齢別 男女別 座高の平均値



### (4) 県平均値における1年間の発育量

身長・体重・座高の県平均値について、各年齢時の1年間の発育量を見てみると、次のとおりである。(図4、表6 p21)

#### ① 身長

男子では、10歳時～12歳時に発育量が著しく増加しており、12歳時が最大となっている。

女子では、9歳時～10歳時に発育量が著しく増加しており、10歳時が最大となっている。

#### ② 体重

男子では、11歳時～14歳時に発育量が著しく増加しており、14歳時が最大となっている。

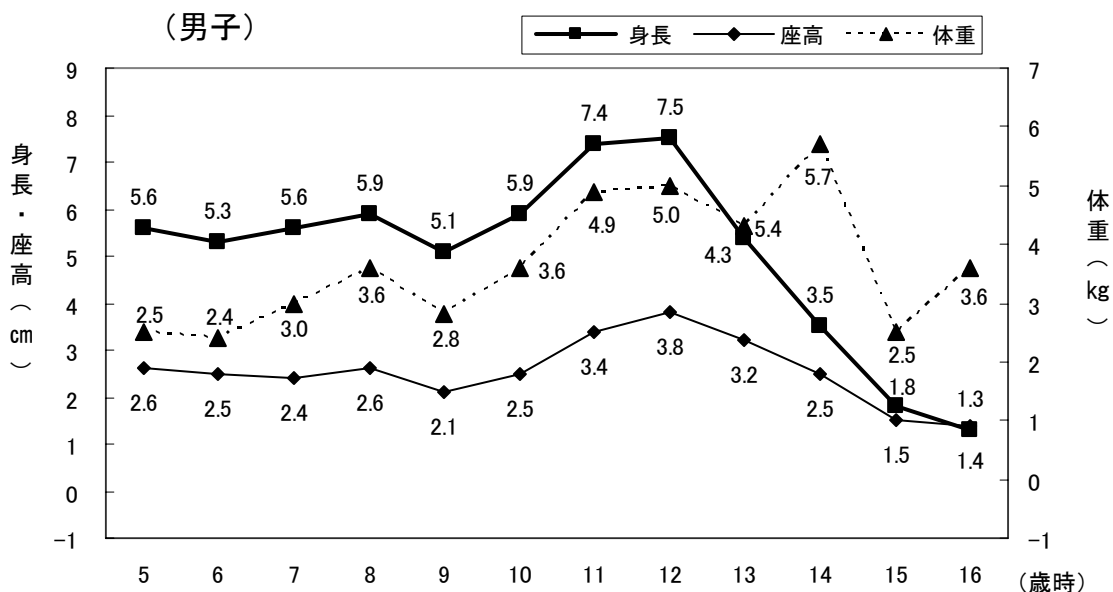
女子では、9歳時～11歳時に発育量が著しく増加しており、10歳時が最大となっている。

#### ③ 座高

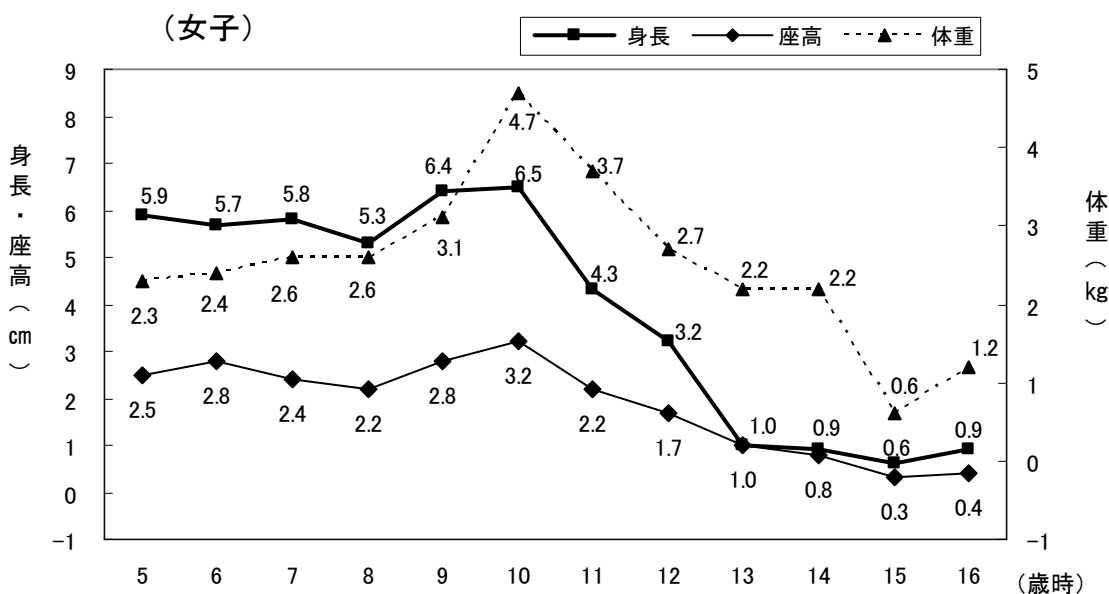
男子では、11歳時～13歳時に発育量が著しく増加しており、12歳時が最大となっている。

女子では、9歳時～10歳時に発育量が著しく増加しており、10歳時が最大となっている。

図4 県平均値における1年間の発育量



注) 1年間の発育量とは、例えば5歳時の発育量であれば、平成21年度の6歳の県平均値から平成20年度の5歳の県平均値を引いた数値。以下同じ。



(5) 県平均値における親世代(昭和54年度)との比較

身長・体重・座高の県平均値について、その親の世代である30年前の昭和54年度と比較してみると、座高の5歳児を除き、男女とも各年齢において親世代(昭和54年度)を上回っている。(図5、図6、図7、表7 p22)

① 身長

男子の身長を比べると、最も差がある年齢は12歳で、親の世代より3.5cm高い。女子の身長を比べると、最も差がある年齢は10歳で、親の世代より2.4cm高い。

② 体重

男子の体重を比べると、最も差がある年齢は17歳で、親の世代より4.4kg重い。  
 女子の体重を比べると、最も差がある年齢は11歳で、親の世代より2.4kg重い。

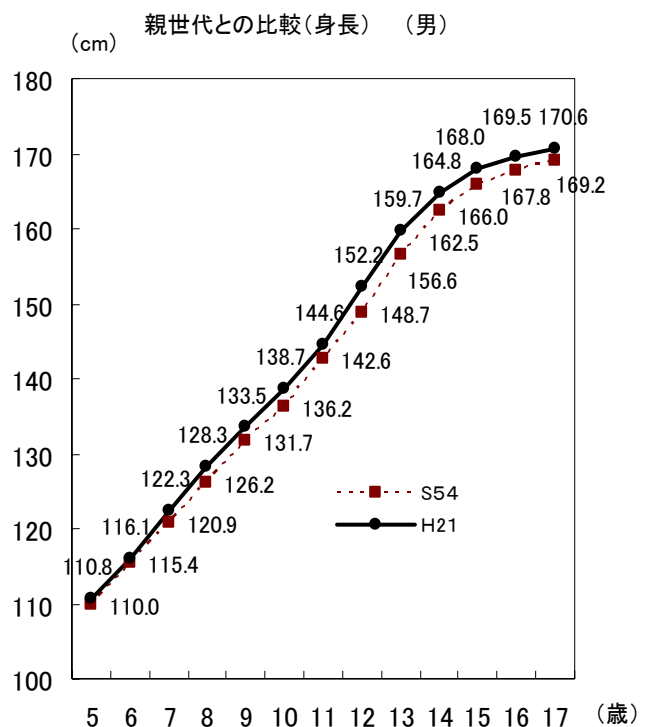
③ 座高

男子の座高を比べると、最も差がある年齢は14歳で、親の世代より1.8cm高い。  
 女子の座高を比べると、最も差がある年齢は10歳で、親の世代より1.1cm高い。

なお、身長から座高を引いた足の長さ（下肢長）について比べると、男子でもっとも差がある年齢は12歳で1.9cm、女子は5歳及び10歳で1.3cm親の世代より長い。

図5 県平均値における親世代との比較（身長）

身長 (cm) (男)		
	昭和54年度	平成21年度
5歳	110.0	110.8
6歳	115.4	116.1
7歳	120.9	122.3
8歳	126.2	128.3
9歳	131.7	133.5
10歳	136.2	138.7
11歳	142.6	144.6
12歳	148.7	152.2
13歳	156.6	159.7
14歳	162.5	164.8
15歳	166.0	168.0
16歳	167.8	169.5
17歳	169.2	170.6



身長 (cm) (女)		
	昭和54年度	平成21年度
5歳	109.2	110.3
6歳	114.3	115.8
7歳	120.5	121.5
8歳	125.7	127.4
9歳	131.5	133.5
10歳	137.3	139.7
11歳	145.0	146.6
12歳	149.8	151.7
13歳	153.4	155.0
14歳	155.5	156.2
15歳	156.1	157.2
16歳	157.0	157.5
17歳	156.8	157.9

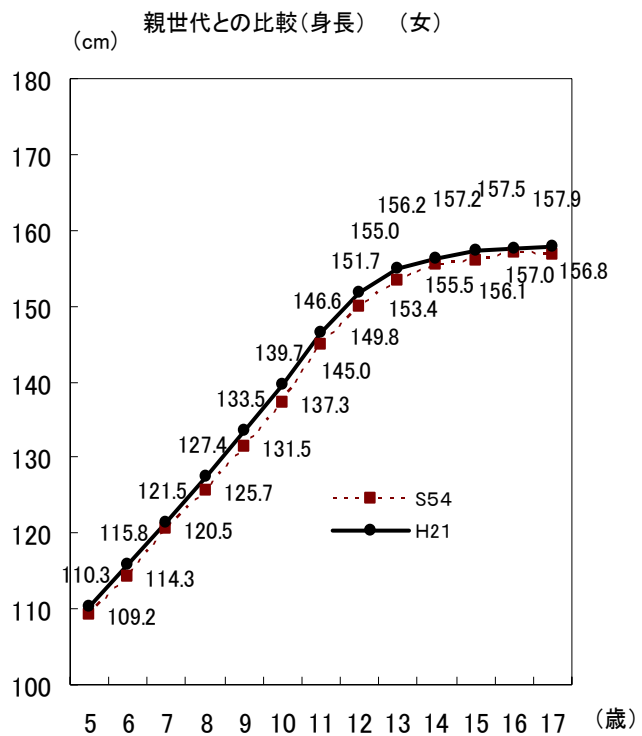
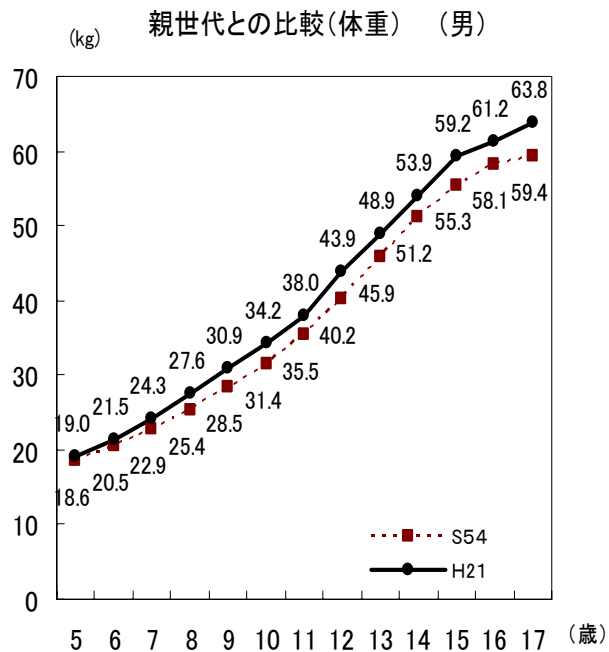


図6 県平均値における親世代との比較 (体重)

体重 (kg) (男)		
	昭和54年度	平成21年度
5歳	18.6	19.0
6歳	20.5	21.5
7歳	22.9	24.3
8歳	25.4	27.6
9歳	28.5	30.9
10歳	31.4	34.2
11歳	35.5	38.0
12歳	40.2	43.9
13歳	45.9	48.9
14歳	51.2	53.9
15歳	55.3	59.2
16歳	58.1	61.2
17歳	59.4	63.8



体 重 (kg) (女)		
	昭和54年度	平成21年度
5歳	18.4	18.8
6歳	19.9	21.1
7歳	22.6	23.8
8歳	25.2	26.6
9歳	28.2	30.1
10歳	31.6	33.5
11歳	36.8	39.2
12歳	41.6	43.3
13歳	45.6	47.2
14歳	48.6	50.3
15歳	51.1	52.3
16歳	52.3	52.5
17歳	51.8	52.9

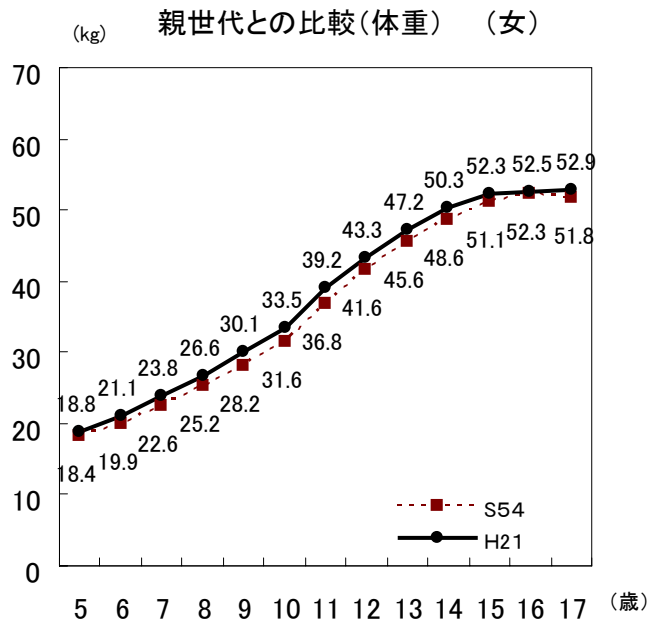
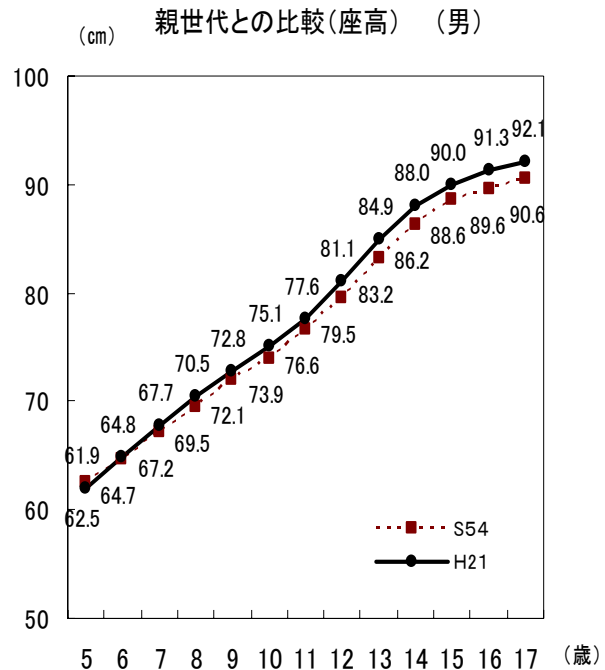
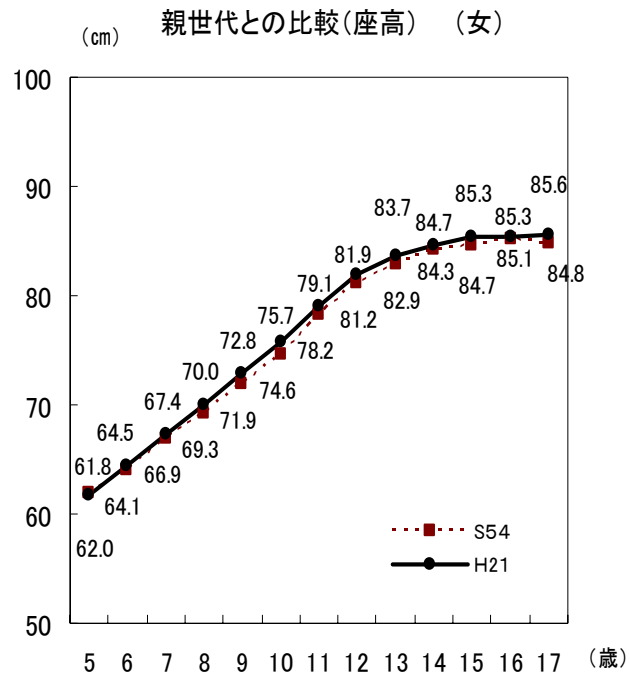


図7 県平均値における親世代との比較 (座高)

座 高 (cm) (男)		
	昭和54年度	平成21年度
5歳	62.5	61.9
6歳	64.7	64.8
7歳	67.2	67.7
8歳	69.5	70.5
9歳	72.1	72.8
10歳	73.9	75.1
11歳	76.6	77.6
12歳	79.5	81.1
13歳	83.2	84.9
14歳	86.2	88.0
15歳	88.6	90.0
16歳	89.6	91.3
17歳	90.6	92.1



座 高 (cm) (女)		
	昭和54年度	平成21年度
5歳	62.0	61.8
6歳	64.1	64.5
7歳	66.9	67.4
8歳	69.3	70.0
9歳	71.9	72.8
10歳	74.6	75.7
11歳	78.2	79.1
12歳	81.2	81.9
13歳	82.9	83.7
14歳	84.3	84.7
15歳	84.7	85.3
16歳	85.1	85.3
17歳	84.8	85.6



## (6) 肥満傾向児の出現率

県内における肥満傾向児の出現率は、男子では8歳～10歳、12歳及び15歳～17歳で10%を超えており、15歳が13.3%と最も高くなっている。女子では17歳のみ10%を超えており、10.8%と最も高くなっている。(図8、表8 p23)

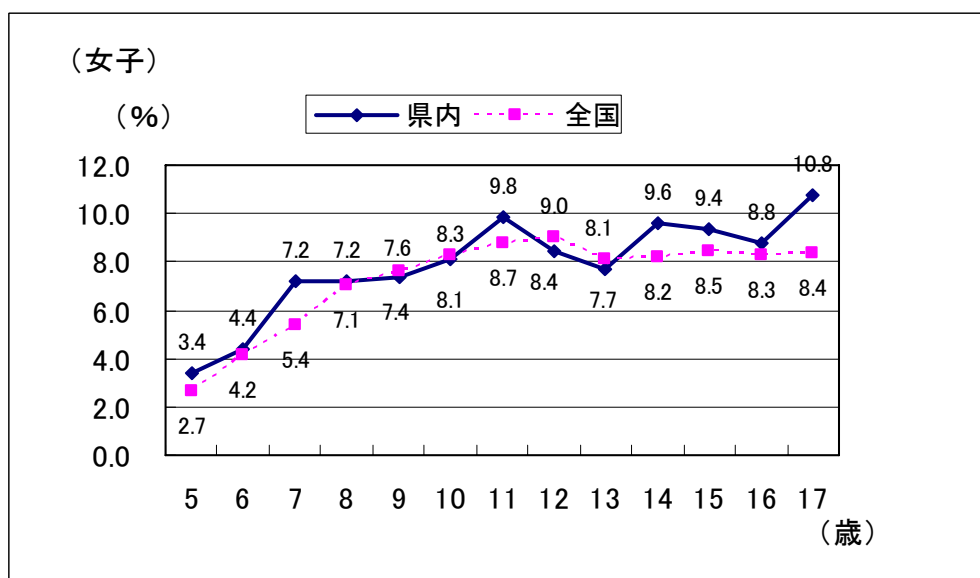
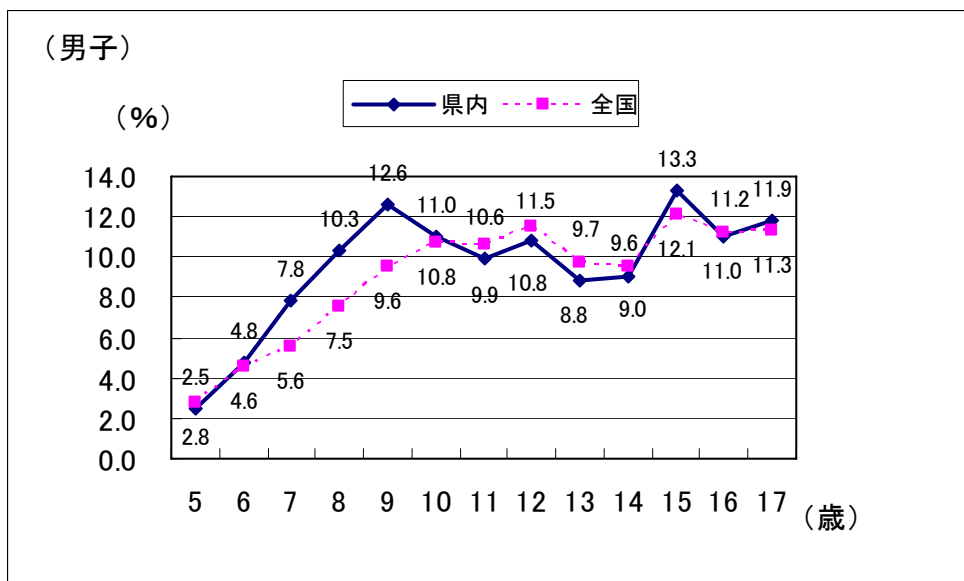
肥満傾向児の出現率を全国平均値と比べてみると、男子は、6歳～10歳、15歳及び17歳で、全国平均値を0.2～3.0ポイント上回っている。9歳において最も大きく全国平均値の出現率を上回っており、その差は3.0ポイントである。11歳～14歳及び16歳では、全国平均値を0.2～0.9ポイント下回っている。13歳において最も大きく全国平均値の出現率を下回っており、その差は0.9ポイントである。

女子は、5歳～8歳、11歳、14～17歳で、全国平均値を0.2～2.4ポイント上回っている。17歳において最も大きく全国平均値の出現率を上回っており、その差は2.4ポイントである。9歳、10歳、12歳及び13歳では、全国平均値を0.2～0.6ポイント下回っている。12歳において最も大きく全国平均値の出現率を下回っており、その差は0.6ポイントである。

(図8、表8 p23)



図8 肥満傾向児出現率の全国平均値との比較



(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が 20%以上の者である。肥満度の求め方は以下のとおり。  
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

### (7) 痩身傾向児の出現率

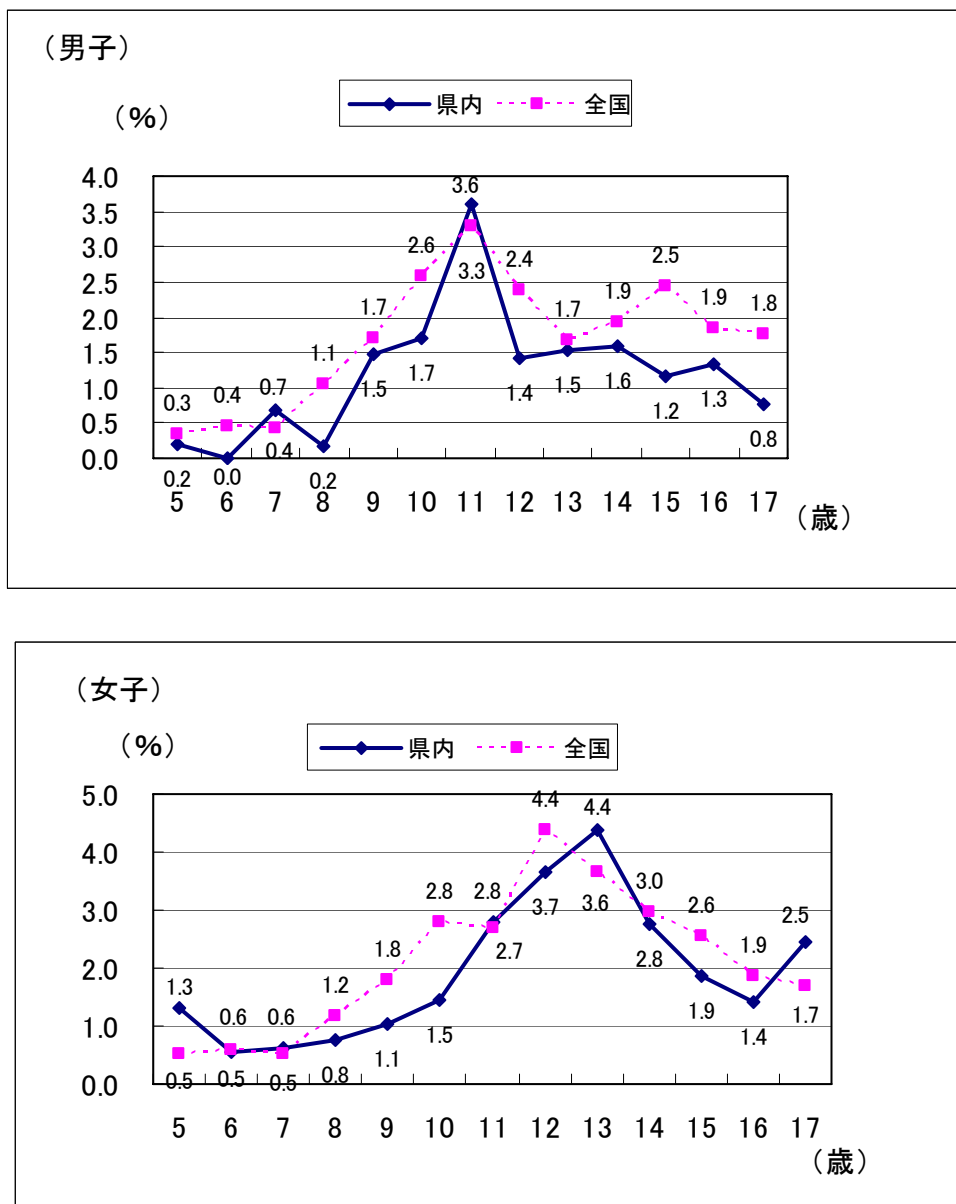
県内における痩身傾向児の出現率は、男子では 9 歳～16 歳で 1%を超えており、11 歳の 3.6%が最も高くなっている。女子では 5 歳及び 9 歳～17 歳で 1%を超えており、13 歳の 4.4%が最も高くなっている。(図 9、表 9 p24)

痩身傾向児の出現率を全国平均値と比べてみると、男子は、7 歳及び 11 歳で全国平均値の出現率を上回っているのみである。11 歳において最も大きく上回っており、その差は 0.3 ポイントである。そのほかの年齢では、全国平均値の出現率を▲0.1～1.3 ポ

イント下回っている。15歳において、最も大きく下回っており、その差は▲1.3ポイントである。

女子は、5歳、7歳、11歳、13歳及び17歳で全国平均値の出現率を0.1～0.8ポイント上回っている。5歳及び17歳において、最も大きく全国平均値の出現率を上回っており、その差は0.8ポイントである。6歳、8歳～10歳、12歳及び14歳～16歳では、全国平均値の出現率を▲0.1～1.3ポイント下回っている。10歳において、最も大きく下回っており、その差は▲1.3ポイントである。(図9、表9 p24)

図9 痩身傾向児出現率の全国平均値との比較



(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。肥満度の求め方は以下のとおり。

$$\text{肥満度} = (\text{実測体重} - \text{身長別標準体重}) / \text{身長別標準体重} \times 100 (\%)$$

## 2 健康状態調査結果

学校保健統計調査では、発育状態とともに、健康状態も調査しているが、熊本県の主な特徴は以下のとおりである。

### (1) 裸眼視力1.0未満の者

平成21年度の「裸眼視力1.0未満の者」の割合は、小学校(25.5%)、中学校(43.8%)、高等学校(44.9%)となっており、年齢が上がるにつれて、高くなっている。

(表10 p25)

「裸眼視力1.0未満の者」の割合を前年度と比べると、小学校(0.3未満)及び中学校(0.3未満)を除いて、前年度を下回っている。(表10 p25)

「裸眼視力1.0未満の者」の割合を全国平均値と比べると、高等学校(1.0未満0.7以上)を除いて、全国平均値を下回っている。(表11 p25)

### (2) むし歯(う歯)

平成21年度の「むし歯」の者の割合(処置完了者を含む。以下同じ。)は、幼稚園(59.6%)、小学校(69.9%)、中学校(71.9%)、高等学校(72.9%)となっており、年齢別にみると、5歳(59.6%)が最も低く、17歳(74.8%)が最も高くなっている。

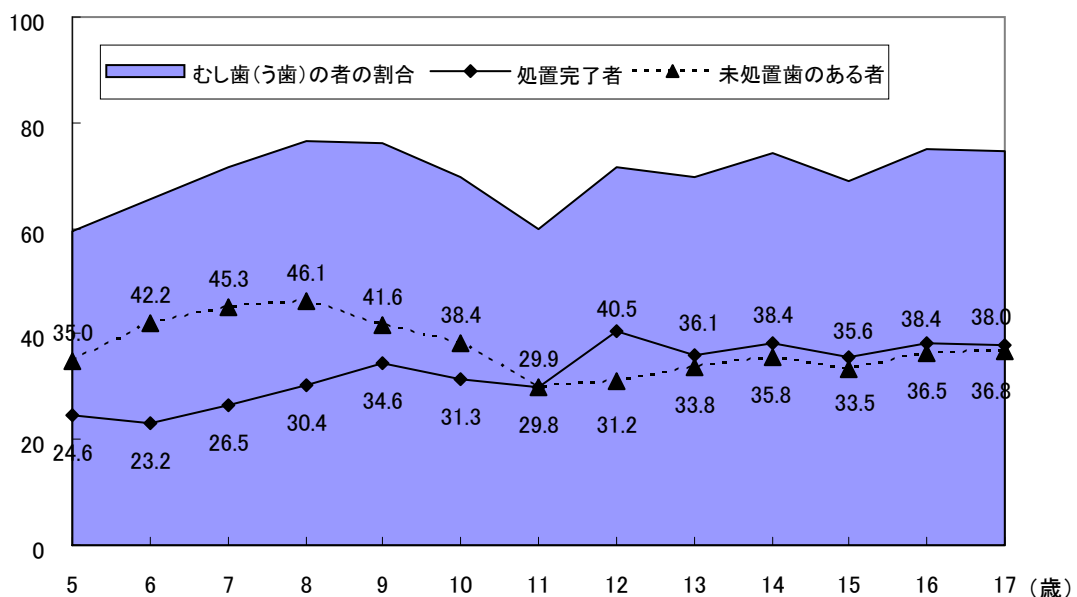
また、処置完了者の割合は、12歳以降、未処置歯のある者の割合を上回っている。(図10)

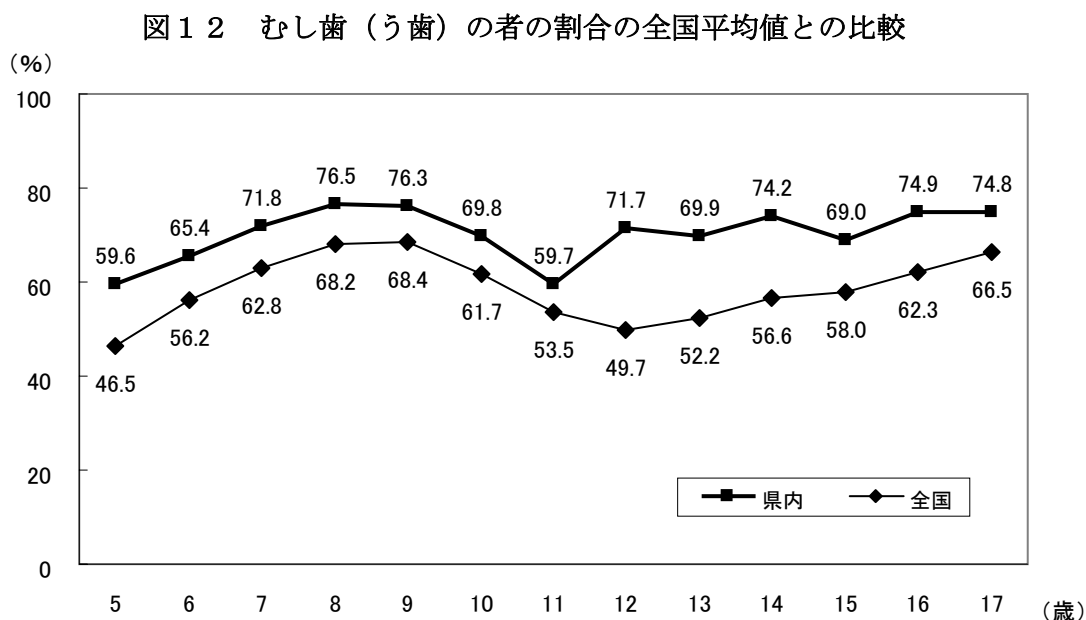
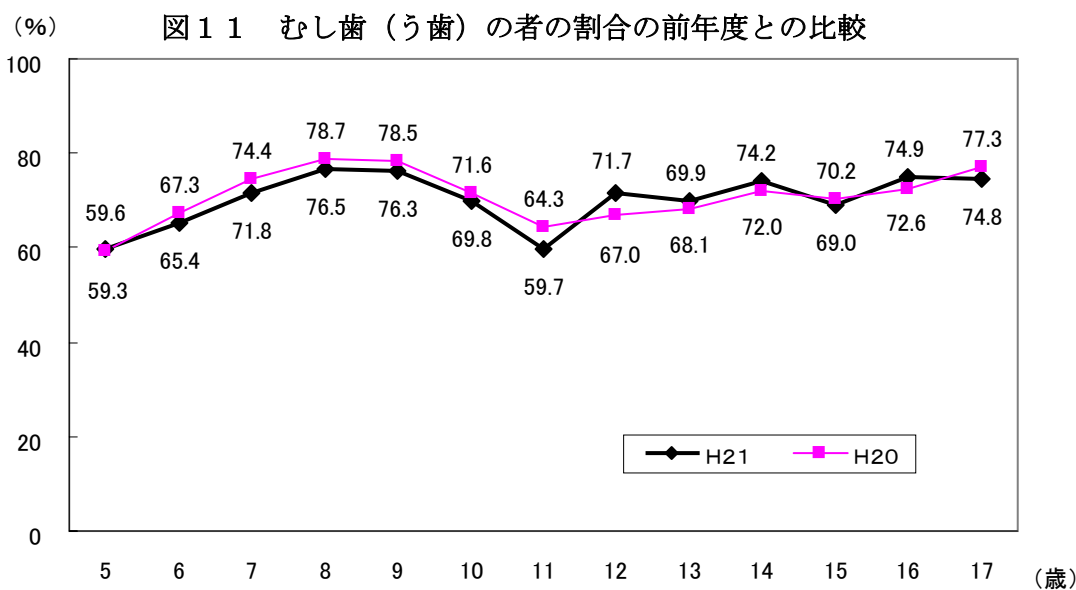
「むし歯」の者の割合を前年度と比べると、6歳から11歳、15歳及び17歳では、前年度を下回っている。(図11)

「むし歯」の者の割合を全国平均値と比べると、すべての年齢において、全国平均値を上回っている。(図12)

(%)

図10 年齢別 むし歯(う歯)の者の割合等





### (3) ぜん息

平成21年度の「ぜん息」の者の割合は、幼稚園(1.1%)、小学校(2.3%)、中学校(2.4%)、高等学校(0.9%)となっており、年齢別にみると、6歳(3.1%)が最も高くなっている。なお、7歳以降は年齢が進むにつれて低くなる傾向にある。

「ぜん息」の者の割合を全国平均値と比べると、すべての年齢において、全国平均値を下回っている。

図13 ぜん息の者の割合の全国平均値との比較

